



浦和大里小学校だより

8・9月号 令和8年8月26日発行

学校教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成



みんなで創る学校

校長 神田 朋恵

令和8年熊本地震ならびに千葉県の高雨により犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興と、被災地の皆様の安全が確保されますことをお祈り申し上げます。

夏休み終盤に、地域やPTAの皆様による行事が行われました。育成会主催のラジオ体操には213名が参加し、青空の下で気持ちよく体を動かしました。PTA主催の「夏は親子deベルマーク!!」には39名もの親子が集まって作業をしてくれました。また、水かけまつりでは、多くの子どもたちの笑顔があふれ、仲間と楽しい時間を過ごす姿が見られました。新学期を前に、元気な子どもたちの姿に触れることができ、大変うれしく感じました。

さて、本日から長い2学期が始まりました。学校には再び子どもたちの元気な声が響いています。始業式では、子どもたちに「小さなできた!を積み重ねよう」という話をしました。新しいことに挑戦することだけが成長ではありません。昨日より少し早く起きられた、苦手なことに向き合えた、友達に優しい言葉をかけられた。そんな一つ一つの「できた!」の積み重ねが、自信という大きな宝物につながります。

また、7月に参加した「さいたま市ストップいじめ!子どもサミット」では、内谷中学校区の子どもたちが「あいさつで伝え合う ありがとうで認め合う」というスローガンを提案していました。私は、この言葉には本校が目指す「みんなでWell-beingな学校を創る」姿が表れていると感じました。あいさつによって心を通わせ、「ありがとう」によって相手の存在や頑張りを認める。その積み重ねが、一人ひとりが大切にされる学校につながっていくと考えるからです。

先月号でお伝えした開校50周年に向けた準備も始まりました。正式に開校50周年行事実行委員会が立ち上がり、元PTA会長である新藤様に実行委員長をお引き受けいただきました。実行委員会では「つなごう大里魂!50年の感謝から、新しい未来へ」をコンセプトに掲げました。子どもたちからも「お祝い会をしたい」「記念動画を作りたい」「全校で遊びたい」など、多くのアイデアが寄せられています(写真)。50年という歴史も、振り返れば先輩方が積み重ねてきた数え切れないほどの「小さなできた!」の連続です。私たちも今年一年の歩みを大切にしながら、未来へとつながる学校づくりを進めていきたいと思っています。

2学期も、子どもたちの思いや願いに耳を傾けながら、保護者・地域の皆様とともに、誰もが安心して学び育つことのできる浦和大里小学校を創ってまいります。引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。